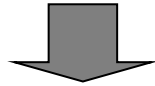


## 新たな家畜改良増殖目標(第11次)の検討状況について

## － 鶏 －

## 現状と課題

- ・消費者に単価の高い鶏卵や地鶏等を購入してもらうためには、何らかの付加価値が必要。
- ・飼料用米が給与された鶏卵・鶏肉は、消費者に訴求しやすいが、その生産物をすべて販売できるかが課題。
- ・外国産種鶏由来の鶏は多産かつ小玉傾向だが、消費者は大玉を好むため、それを踏まえた目標設定が必要。
- ・肉用鶏では体重よりも出荷日数で目標を示した方が、生産者には分かりやすい。
- ・新たに確立された遺伝資源の保存技術は、改良手法として現場普及レベルに達している。
- ・地鶏肉の旨味成分であるイノシン酸や核酸の含量は様々であるため、定量的な目標の設定は難しいと考えられる。



## 新たな改良増殖目標(案)の策定に向けた主な方向性

## 【能力に関する目標】

## 1 卵用鶏

- ・卵重量は、消費者ニーズを踏まえながら、幅を持たせた目標値を設定。

## 2 肉用鶏

## ① ブロイラー

- ・肉用鶏の能力に関する目標数値に、(参考)として掲げられていた「出荷日齢」に係る指標を追加し、昨今の出荷日数の縮減状況を踏まえて目標値(49日→45日)を設定。

## ② 地鶏等

- ・地鶏等の生産に素材鶏として必要となる在来品種の改良・増殖等については、引き続き(独)家畜改良センターと都道府県の連携により実施。

## 【能力向上に資する取組】

## 1 改良手法

- ・農研機構で新たに確立された遺伝資源保存技術等を活用して、鶏の改良増殖の基盤強化を図る。

## 2 飼養・衛生管理

- ・飼料用米で飼養した鶏の糞を米農家に還元するなど、SDGs(持続可能な開発目標)に配慮した取組について、JAS制度を活用したPRを検討。
- ・飼養管理、家畜衛生、労働安全、アニマルウェルフェア等の取組をGAP手法によって推進。

## ※ 今後、継続して意見を聴取する事項等

- おいしさ等に関する指標を示すことについて、更に検討が必要。